

が担当してグリーンピア指宿で行われた愉快的(恐怖の?)ショーは、今でも語り草になっているのではないか。

九州地方会が発足してこの20年間、小児歯科に限らず歯科全般が、社会的な背景を含めて大きく変化してきた。この変革は今後ますます加速していくことだろう。今我々にできることは、そしてしなくてはならないことはその変化に確実に対応していく事ではないだろうか。もちろん、子供たちの健全な成長・発育に寄与するという使命感を持って。

## 設立20周年に寄せて

九州歯科大学小児歯科学講座 牧 憲 司

日本小児歯科学会九州地方会設立20周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。

毎年行われる地方会の大会の内容が、年々充実したものになっているのは、各大会会長を初めとした関係各位の並々ならぬ御尽力の賜物だと思います。九州の地における本学会の意義は益々重要になってくることを確信しております。

私自身のことに関して言えば、学会発表の最初の場がこの地方会での講演でした。非常に緊張し、質問の意味を若干、取り違えたのを記憶しております。その後本会での数度の講演を経験し、発表のノウハウを学んだように感じます。

また懇親会で多くの先生方と臨床、研究、教育などについてざっくばらんに会話できるのも大きい楽しみの一つですし、長崎や鹿児島など風光明媚の地で学会をたびたび開催できるのも九州地方会ならではのでしょう。

少子高齢化社会の到来とともに、小児歯科を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっております。変革の中にある大学における小児歯科の立場も微妙であります。しかしながら「小児～成人～高齢者」と言う縦割りの中での小児歯科の学問的重要性は、何ら変わることはないと思います。大学人としてノイエスのある研究を心掛け、臨床に常にフィードバックできるよう努めていきたいと考えてます。また実質的に大学の講座の垣根を超え、小児の健全な口腔育成に多くの Suggestion が求められるような体系作りが、さらに必要になってくるのではないのでしょうか。